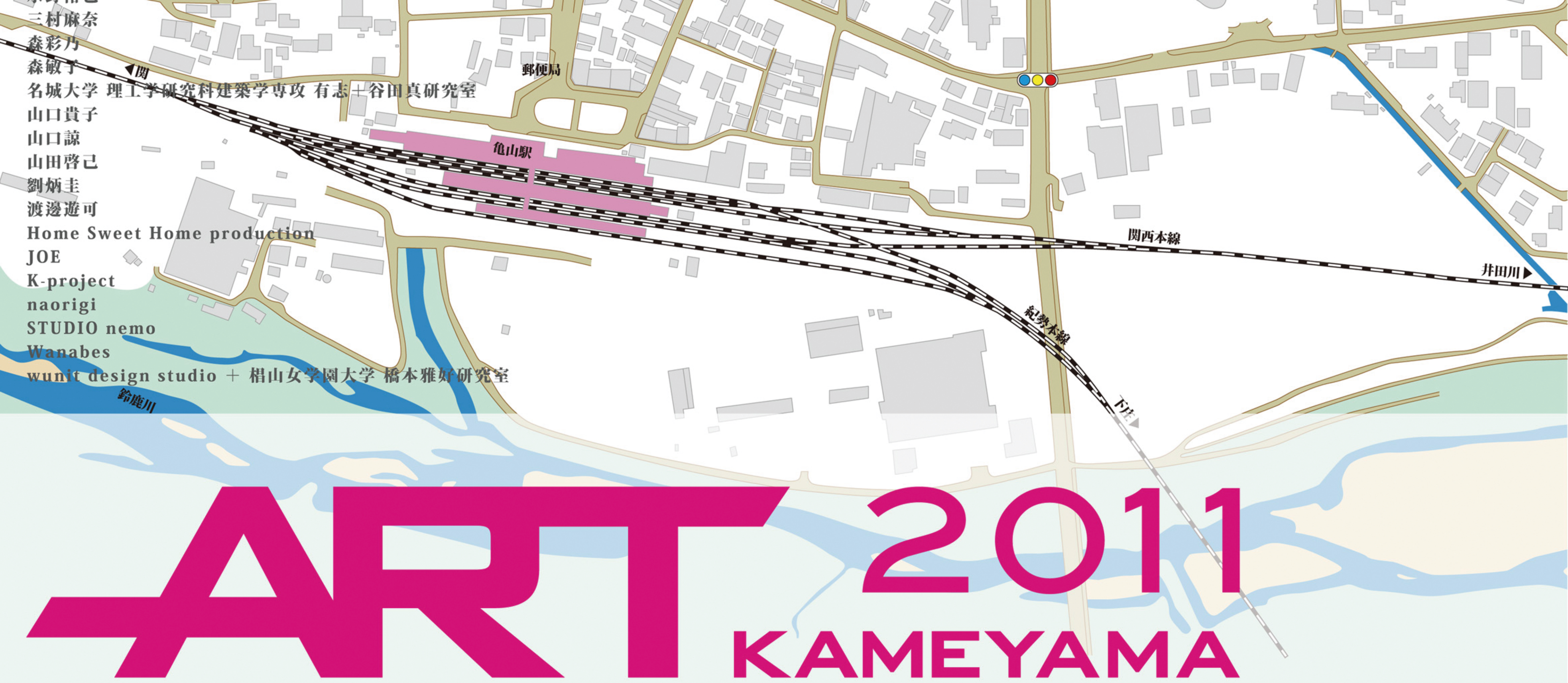


三村麻奈
森彩乃
森敏子
名城大学 理工学研究科建築学専攻 有志＋谷田真研究室
山口貴子
山口諒
山田啓己
劉炳圭
渡邊遊可
Home Sweet Home production
JOE
K-project
naorigi
STUDIO nemo
Wanabes
wunit design studio ＋ 椙山女学園大学 橋本雅好研究室

ART 2011 KAMEYAMA

会　場：三 重 県 亀 山 市 東 町 商 店 街 周 辺
会　期：2011年10月16日（日）～10月23日（日）
時　間：10：00～17：00（23日は16：00終了）

「アート亀山」は 2008 年に地元のアーティストと、東町商店街店主、住民によって立ち上げられました。2010 年からは、三重県唯一の現代アートのコンペティションを催し、日本各地からアーティストが集合しています。商店街の人々も非常に協力的で、プロジェクトの中心として関わってくださっています。商店街の人々の協力なしには成り立たないプロジェクトであると同時に、商店街の人々の協力そのものが魅力であるプロジェクトです。

「アート亀山」というプロジェクトと、「亀山」という地域をより深く、強く結びつけ、「アート亀山」を長期的で持続性のあるプロジェクトにしていきたいという意図で、本年度より「居座りアート in 亀山　～アート亀山 2011 ARTIST IN RESIDENCE PROGRAM ～」も催されました。レジデンス参加者は 8 月のレジデンス期間中に亀山へ滞在し、得たものを、作品として表現し、本展覧会に出品しています。また、「アート亀山 2010」の際に「アート亀山」の魅力に引き寄せられたアーティスト有志により、「アート亀山 2010」を東京に移動させ、持ち込む「アート亀山 2010in 東京」が 2011 年 6 月に開催されるなど、「アート亀山」でありながら、亀山から飛び出た動きも出てきています。

東町商店街、亀山が豊かになり、関わったアーティストの努力も実るように、「アート亀山」は参画したすべての人の想いをのせて、１つの生命体のように進化を続けています。　（アート亀山 2011 実行委員会一同）

「アート亀山」は三重県で唯一の公募による現代アート展です。今年も “尖った” アートの競演を期待しています。　（井上隆邦三重県立美術館長）

アート亀山2011

「アート亀山２０１１」記録誌

<u>プロローグ</u>

アート亀山は、アートを通じて亀山の商店街の活性化を図ろうとする取り組みとして、また、作家たちは商店街という日常に非日常（アート）を持ち込む実験として２００８年から始まった。白いアーケードが印象的で「丘の上の白い街」と呼ばれる東町商店街は、かつては賑わいを見せていたが、徐々にシャッターを下ろす店舗が増え、活気が失われつつあった。アートを取り入れることによって街の賑わいを取り戻そうという地元作家の想いをきっかけに始まったアート亀山は今回で４回目を迎えた。

街にアートが溶け込む事によって、地元の人々は街の新たな魅力を再発見することができ、亀山を知らない人にとっては新たに亀山の魅力を知るきっかけになる。そして、商店街の方々、街を訪れる人々、作家達が交流する機会を作り出す。人が出会い、会話が生まれ、魅力を共有することができる。このように、アートはコミュニケーションの媒体でもある。さらに街で作るアート、街で出会うアート、それらが街にもたらすものは活気だけでなく、亀山という街の歴史や文化についての認識を深め、アート亀山に関わるすべての人々の力にも成りえる。

今年の「アート亀山２０１１」は地元作家とコンペで選出された若手作家６２組が、商店や空き店舗、路地、公園などに作品を展示した。ファッションショーの開催や、子どもを対象にしたワークショップ、似顔絵などさまざまなアプローチを行い、多くの人が会場に足を運んだ。商店街の人々と作家だけでなく、亀山を訪れる人々がアートの魅力を感じ、さらに亀山という街の魅力も同時に感じたことだろう。参加作家は亀山の商店街という場を意識した作品にトライし、サイトスペシフィックという視点を持った展示が人々の目を引いた。

アート亀山では、場所や年代を越えて新たなつながりが無数に生まれている。作家とのつながりによって２０１１年６月には「アート亀山２０１０in 東京」も行われ、亀山から東京まで活動の範囲が広がった。「アート亀山２０１１」では、８月に新しいプログラムとして「居座りアート in 亀山」を開催した。関東や関西から集まったレジデンス作家が一週間にわたって亀山に住み、商店街の人々や街の様子にふれあいながら作品を制作し、１０月にその成果を作品として発表した。

アート亀山は、年を重ねるごとに確実に成長してきている。これからもその内容に満足することなく、一つ一つの課題を乗り越える努力をしながらひとつの生命のように亀山の地で成長し続けるであろう。

開催日：　２０１１年１０月１６日（日）～２３日（日）
開催場所：　三重県亀山市　東町商店街
主催：　「アート亀山２０１１」実行委員会
事業協力：　亀山市

「アート亀山２０１１」を終えて
――――――　先へ・もっと先へ　――――――

「アート亀山２０１１」実行委員会
代表　　伊藤　峰子
副代表　　森　　敏子

亀山市東町商店街にあふれるＡＲＴ。
大勢の人々が商店街を歩き、ひとつひとつの作品を鑑賞していただきました。
「アート亀山２０１１」には全国からコンペを終えて集まった若手アーティスト３８組、夏に開催したアーティストインレジデンスに参加した作家９名、そして地元の作家１５組の総勢６２組が店舗、空き店舗、路地などに作品を展示しました。
商店街という日常に現代アートという非日常の世界が拡がり、鑑賞者の感性は大いに刺激されたと信じています。
空洞化しつつある商店街にアートを持ち込み、街と人との新しい関係性を創りたいと始まった「アート亀山」。
アーティストにとっても街にとっても、もっともっと魅力ある企画になるようこれからも努力していきます。
今回は亀山市との協働提案事業として実施できたことも、これから先の市民の文化芸術活動に光を見いだせました。
何より、商店街の皆様はじめ、住民の方々の温かいご支援とご協力がなかったら成功していなかった事業であることは言うまでもありません。
ご協力いただいた関係者のみなさま、本当にありがとうございました。
最後に何度も亀山を訪れて、大きな力で支えていただいた三重県立美術館の井上隆邦館長に心より感謝申し上げます。

オープニング

アート亀山２０１１によせて

亀山市長　櫻井　義之

本年度のアート亀山２０１１は、アートによるまちづくりを考える会の皆様のご提案により、市との協働事業として開催いたしました。アート亀山２０１１が、かくも盛大に開催されましたことは、ひとえに伊藤峰子実行委員長をはじめ、関係各位のご尽力の賜物であり、心より深く感謝を申し上げます。

さて、昨年は、東日本大震災や紀伊半島を襲った台風等により、各地に甚大な被害が発生し、被災地の希望へとつながる多くのボランティアが活躍されました。

このような未曾有の大災害から改めて思いますのは、やはり人と人との絆、支えあう共生の力の大切さであります。アートは、心の傷を癒す方法としても早くから注目されてきましたが、自由で自主的なアート活動は、一人ひとりの感性や創造性を高めるだけでなく、見る人のその時々の心境を映し出し、心を豊かにしてくれます。このたびのアート亀山２０１１では、商店街にアートを取り込み、その舞台として活かすことによって、全国各地からお越しいただいた作家の皆様と地域の皆様とのふれあいや、イベントに訪れた人たちとの出会いなど、たくさんの新たな絆が生まれたものと確信しております。

このように、文化には、人を引き付ける魅力や、地域を元気にする力があることから、本市では、日々の生活に安らぎや生きる喜びを与え、自分や他人を大切に思う心を育む「文化の力」を生かしたまちづくりを進めるため、平成２３年３月に文化振興ビジョンを策定しました。ビジョンに定める３つの基本方針である「文化による創造と交流のまち」、「個性を活かした魅力あふれるまち」、「次世代を育み創造するまち」に基づき、クオリティ・オブ・ライフ（暮らしの質）の高いまちを目指して、今後も文化政策の推進に取り組んでまいります。

アート亀山２０１１では、アートインレジデンスにより生み出された作品をはじめ、たくさんの個性豊かな作品を鑑賞させていただきました。作家の皆様におかれましては、今後ますますのご活躍をご祈念申し上げますとともに、ここ亀山市で、再びお会いできますことを心待ちしております。

最後になりましたが、アート亀山が人々の心を豊かにし、人と文化の更なる交流を生み出すイベントとして、一層発展していくことをご祈念申し上げますとともに、アート亀山２０１１の開催にご尽力いただきました実行委員の皆様、関係者の皆様のますますのご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。

「アート亀山２０１１を振り返って」

三重県立美術館長　　井上隆邦

今回で四回目を迎えたアート亀山は、前回と比較し、内容面でずいぶんと充実した。無論、課題は多いものの、こうした課題を克服し、今後、第五回、第六回と地道に事業が継続され、三重での現代アートの発信基地として大きく成長して欲しいと思う。

今回参加した作家の中には佐藤学さんや寺村サチコさんのように、その後、伊勢の現代美術館の服部館長から声がかかり、同館での展示を打診されたケースもある。波及効果の一例であろう。また面白かったのは、今田テーラーでの展示を手掛けた小野崎理香さんの作品だ。商店街の歴史や雰囲気が見事に反映されていた。

アート亀山は、経済振興も視野に入れているので、今回は抱き合わせで百均市も開催された。商店街の各店舗が店先にテーブルを並べ、百円で買える品物を売るという試みだ。百均市を開催した当日には、有名な亀山みそ焼きうどんも出店し、人出は予想を裏切るものであった。買い物や飲食を楽しみながら、現代美術に触れて貰うのも一興であろう。

会期中に出展していたネイル・アートのブースも人気が高く、行列ができていた。次回のアート亀山ではこうしたブースが１０前後揃えば、観客動員にも役立つ筈だ。今後、サブ・カル的なものなど、現代アートの周辺領域もどんどん取り込んでいってほしい。

参加作家の大半は、県外からの人であった。殆どが手弁当での参加だった。何しろ少ない予算でアート亀山が運営されているので、参加者の善意に頼らざるを得ない事情は理解できる。しかし、事業を継続してゆくためには、資金面での体制構築が必要不可欠であることはいうまでもない。

日本の地方都市では今、中心商店街の空洞化が凄い勢いで進行している。また多くの商店主が高齢化しており、後継者の確保も容易ではない。亀山の中心商店街でもご多分に漏れず、同じような現象が起こっている。こうした現状を打開し、少しでも商店街に賑わいを取り戻そうとアート亀山が始まったのは４年前のことだ。現在のアート亀山は秋の一時期だけに開催されているが、今後は年間を通して、何かできないものだろうか。例えば若手作家たちに空き店舗を提供し、制作活動の拠点にして貰う、或いは若手の建築家やデザイン、ファッション、アニメ分野のクリエーター達を呼び込み、彼らに事務所を構えて貰うという案は如何であろうか。

最後に触れておかなければならないのはアート亀山を主催し、牽引しているマダム達の存在だ。実にパワフルだ。走りながら、考え、実行していく姿は頼もしい。実行委員長の伊藤峰子さん、また副代表の森敏子さん、彼らをサポートする緒方直青さん、また今回は、アーティストとして奇抜なパフォーマンスを繰り広げた井谷うらんさんの存在を抜きにしてアート亀山を語ることはできない。アート亀山を盛り上げようと、東京から移り住んだ作家の上岡雄貴さんもフットワークがよく、事業の実現に大きく貢献している。

多くの人々によって支えられて初めてアート亀山は花開く。今後の展開に期待したい。

実行委員からのひと言

町内から県外の方まで色々な人が、東町商店街を見て回り、楽しんで下さったことは本当によかったと思います。

ただ、商店の側が定休日やおもてなし、商店の企画など努力しなければいけない所がまだまだ多くあり、問題だと思いました。

私は倉岡先生のおかげで、１２０％店を利用していただき感謝しています。来年の倉岡先生とのコラボも楽しみです。

トヨダカメラ　　豊田美保

今年もアート亀山のお手伝いをしました。

今回は夏のいすわりアートもあり多くの若者が亀山に集いました。１０月の開催中も若い世代の見物人が目立ったように思います。亀山に自分の作品を飾りたいと自腹覚悟で集ってくれた作家さん、彼らを集めてくれた企画担当さんありがとうございました。

森本薬品　　冨松みね子

個性溢れる作品と東街商店街の雰囲気がつながって、亀山という場の新たな一面を今年も発見することができました。そして、作家さんの「とことん」につきあう事ができたのも魅力的でした。

亀山の空間としての中身をたくさんの人と作っていけるアート亀山。その何かわくわくする感覚を、これからも大切にしていきたいです。

三重大学 教育学部 美術教育コース　　平松典子

全国から集まってくれた若いアーティストたちと地元作家の想いがひとつになった「アート亀山２０１１」。年々、充実感が増していくのを感じます。

私の主な仕事は２つあります。第一は運営資金の管理。今年も亀山市をはじめ、多くの皆様、各団体からの協力を得て何とか終えることができました。

そして、もうひとつの大事な仕事。それは炊き出しです。搬入日の昼食はアート亀山名物の市民カレー。街の人たち、運営委員、作家の皆さんが自宅でカレーを作ってきてくださいます。当日各自のカレーを合体！各家庭の味がジョイントして素晴らしいカレーの出来上がり。青空のもとみんなで食べるカレーの美味しいこと！ご飯が足らなくなる程、おかわりをして下さる若手作家の食欲に感動しました。名物亀山みそ焼きうどんとともに、このカレーの味も亀山の思い出に残ってくれると嬉しいです。炊き出しにご協力いただいたボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

会計　　小菅まみ

アート亀山２０１１を前に、いろんな若者たちが東町商店街を歩いていました。嬉しかった！

「亀山を音で表現します。良い音ありませんか？」と声をかけてくれた奈良から来た若いアーティストたち。思いつかなくて市役所に電話をしたら、職員の皆さんが一緒に考えてくれました。楽しいコラボでしたね。その時、亀山で集めた音は「亀山音楽室」という作品になって展示されていました。「亀山に来てくれてありがとう！」の気持ちを表したくてオープニングパーティーでおにぎりを作る係をさせていただきました。あっという間に完食で、これも嬉しかった！

ぜひまた亀山を輝かせに来てください。

福沢みゆき

たそがれの境内に鳴り響く鐘の音を合図にファッションショーがはじまりました。

キャンドルに照らされた石畳を素足で歩くモデルたち。

服というより身体の一部となって布は風になびいていました。

多くの観衆の拍手の中、３０分のショーは無事、終了。

長い時間をかけて縫い上げた私の愛しい服たちは、とても幸せそうでした。

このショーを支えていただいた多くの皆様のおかげで、成功できたとおもいます。

本当にありがとうございました。

心より感謝しています。

この体験を糧に、もっともっと、いい作品づくりに努力したいです。

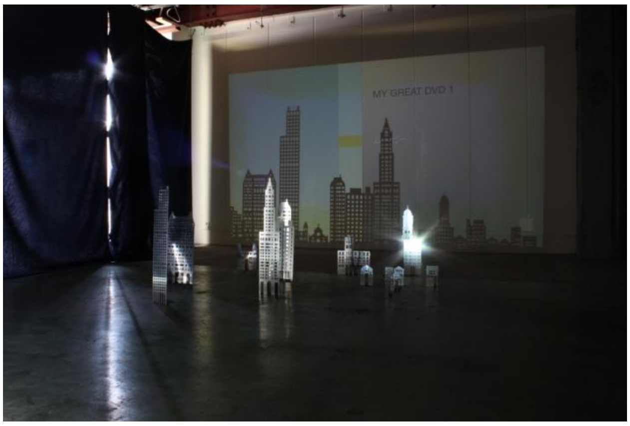
落合香苗

商店街の白い建物を活かしたアート亀山は、アートによるまちづくりの推進や独自の新しい芸術文化の発信により、地域の魅力創出につながる活動であると考えています。また、県下で唯一の公募型アートイベントであり、その個性ある活動は他の市町も注目しています。

今回で４回目を迎えたアート亀山ですが、今後も、全国から集まったアーティストと多くの市民との交流により、現代アートへの理解を深めていただきながら、作家の皆様の力強さで、亀山に芽生えた現代アート展がさらに発展することを期待しています。

亀山市　文化スポーツ室・観光振興室・商工業振興室

作品及び作家コメント



1.　　　門脇太一　「感光する影」

アート亀山２０１１に参加できて楽しかったです。「もっと精進しないと」と気づけた展示でした。作品を見にきていただいた方々、実行委員・作家の皆さま、有り難うございました。

2.　　　寺村サチコ　「FUNGIRLS」

地域と密着したイベントに参加することが初めてだったため、不安なところもありましたが、色々な方との出会いもあり、自分自身、成長できました。

3.　　田村公男　「東町交差点北詰より」他３点

ＡＲＴ　ＫＡＭＥＹＡＭＡもだんだんと大規模になってきて面白みをかんじるものとなってきました。 ただ、自由なＡＲＴにつきものですが表現を含めて作品の傾向が拡散しすぎて、コア的なものがなくなったように思われます。
作品自体の面白みは感じられるのですが、背後にある作家の思い入れみたいなものが少し希薄な感じがしました。 また地作家との絡みがあまりにも少なすぎて、地元の作家の興味があまり得られなかったのも残念です。 こういうパフォーマンスは立ち上げるより継続するほうが大変ですのでこれからもこの貴重な空間に協力していきたいと思っています。

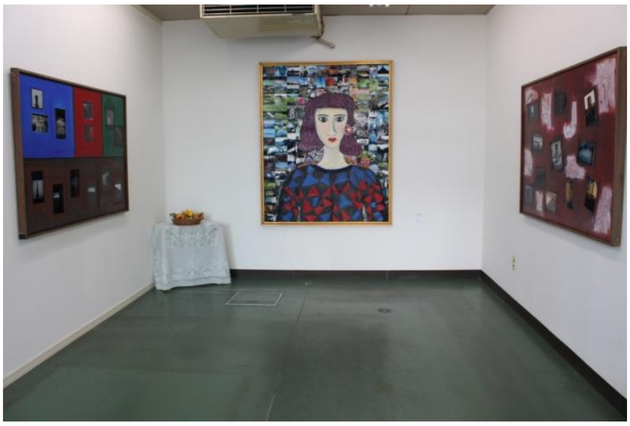
4.　　　渡邊遊可　「原景ーかわらない町ー」
東北出身ということもあり、東京より南の地には赴いたことがほとんどなく、三重県にうかがったのも、今夏が初めてでした。今回のような大きなアートイベントに参加させて頂けたこと、他の分野の作家さんと出会えたことは大きな経験になりました。今後も精進し、発表を続けて行きたいと思っています。みて下さった方々と作品を通して、またどこかでお会い出来ることを願っています。ありがとうございました。

5.　　　瀧澤志保
「トンガッた時間の大陸を駆けぬける」
(レジデンス参加)

アート亀山で得た貴重な経験、体験を今後の制作に還元していきたいと思います。ありがとうございました。

6.　　　谷瀬鈴加　「K」
(レジデンス参加)

アート亀山を通して、考えたことや感じたこと、これからにつながる大きな発見。
また、普段の生活では気づけなかったことを沢山経験させてもらいました。
ありがとうございました。

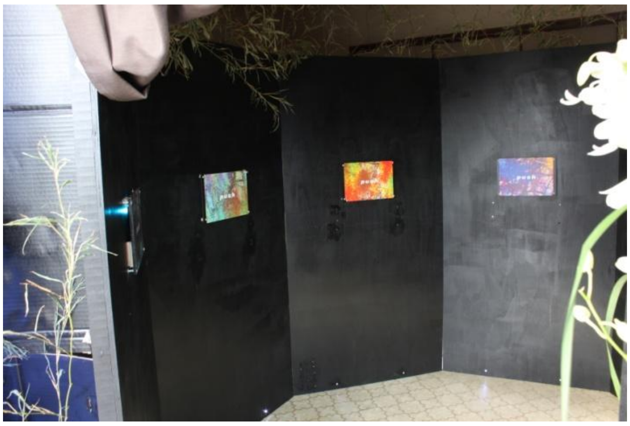


7.　　　絵門仁　「私の日記」

大変お世話になりました。私は展示スペースにも恵まれ沢山の人にも来ていただき良かったです。他展示スペースで場所が分かりにくい所がありお客さんから案内板の充実の要望もありました。

8.　　　小野崎理香　「テーラー今田の 60 年」

正直な所、亀山への前知識なく応募をしたのですが、実際に足を何度か運び亀山の人と自然が織りなす時間の流れを肌で体感することで、作品を作るにはこの「出会い」こそが前提になければならないと改めて感じました。



9.　　　STUDIO nemo　「亀山音楽室」

インスタレーション制作にコンペ参加と「はじめて」がたくさんつまったアート亀山。多くの方々によって作品から紡ぎ出された音は、制作者の想像を大きく超えた音風景となりました。

10.　　　一輝　「舞姫」

普段は創作した文章をネット媒体や本媒体でしか表現の方法がなかったところに、新しく展示、しかも一工夫加えた方法で出来たことはとてもイイ経験になりました。ありがとうございました。

11.　　　松本良太　「鎬伊勢海老」

締め切りに向かって作って、展示していろんな人の作品見て、その人達と話してやる気をもらってまた作る。それの繰り返しを実感したイベントでした。

12.　　劉炳圭　「...劫（Aeon blast)）

御召し(calling)って言うか業(Vocation)を楽しんでた祭りでした。
　マタ...ゼヒ...

13.　　中川浩美　「Pamet’[記憶]」

すばらしい展覧会で、参加できたことをうれしく思います。主催者の方々に感謝申し上げます。町の方々がお昼を用意してくれたり、あたたかいレセプションをしてくださったことが一番うれしかったです。本当にありがとうございました。

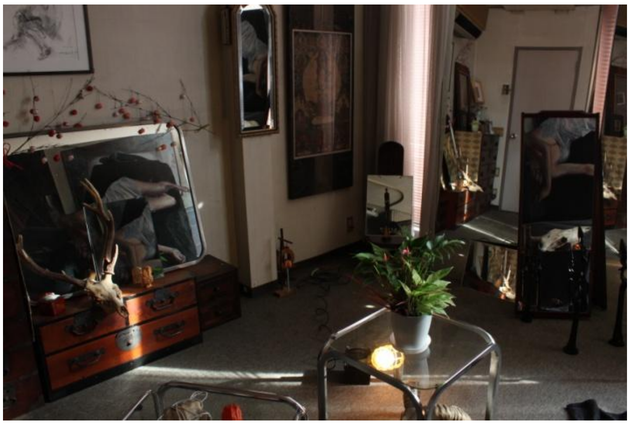
14.　上村愛　「Girl’sMind」
アート亀山２０１１を終えて：不備があり、最初から最後まで皆様にご迷惑をおかけしましたこと、お詫びいたします。思うように展示ができなかったこと、私の都合で皆さんの作品全てを見ることができなかったことが残念でした。

15.　　山田啓己　「Music」
　　　（レジデンス参加）

初めての参加でそれまで亀山のことを全く知らず最初は不安でした。しかし本当に最高と思える作品や作家さんとの出会いがあり、これまで参加させていただいたアートイベントでは一番良かったです。また行きたいです。

16.　　佐野奈月　「非現実的夢想家」

商店街の場所を、お借りして、場所性、今存在するモノを生かし切れなかった事に自分の力不足を感じ反省。協力を惜しまず手伝ってくださった皆様、本当にありがとうございました。



17.　　倉岡雅　「Kazenokei in kameyama」

昨年よりパワーアップしたと思います。私自身の展示も楽しめたし、けったいなアーティストともチョット遊べたし(笑)
「アート亀山」がとても近くなった気がします。来年は区切りの年、もうちょっと本腰を入れようかなと思っています。

18.　　池田有理子
「アイラブユー！」(10 作品)
(レジデンス参加)

19.　　倉岡としえ　「garden」

初年度から参加しています。３回はお店の中に展示させていただきました。自分の作品と亀山、そしてお店、
その都度どんなコラボレーションができるか、考えてはいるのですが…難しい。まあ、それが魅力ですが。

20.　　井谷うらん　「すなっく宇乱」

今年は商店街空き店舗でアートするという意味を考え「場」を利用した インスタレーションアート「すなっく宇乱」を制作。まず、自分が楽しめ！とやったコスプレ？もアートの一つと考えていま す。

21.　　岩塚一恵　「標本室 Specimen room」

地域密着型のアートイベントは昨今多く開催されていますが、アート亀山は場所との関係性もさることながら、地元の人々との繋がりが蜜。楽しく穏やかな時間をありがとうございました。

22.　　佐野誠　「瘤」

新しい繋がりが出来る場になっていると思います。ここからは作家・作品の成長と人間関係の熟成が文化的な街の創造と同時に個々に還元出来るイベントになるかを左右すると思います。今後も参加出来れば幸いです。

23.　　堂本清文　「サイケデリックアート」

「お金」と「長期的展望」の両面から！：第一回からお金のやりくりが大切です。長く「アート」な企画をやろうと思うと、お金がうまく回っていく「仕組み」を創造する事も大切です。参加費が必要であるアートで良いと思います。それから参加者は①アーティスト②地元の商店街の企画者③ボランティア④その次の創造的異ジャンルの人の参加⑤その他という交流とアートが人を変化（変革）させるというコンセプト的「合い言葉」が必要なのではないか。“アート

は人を豊かに街を豊かに変革する”ではどうでしょうか。１０年後に実現する長期的な計画も同時に創造する時期にきていると思います。

24.　　西井和義　「脱皮」

商店街を舞台に普段の仕事や生活では味わえない人付き合いを体験できました。地域社会との交流による制作を経験し、これからのもの作りにも刺激を貰えたと思います。

25.　　K-project　「KOBITO 洋服店」

私にとって反省点の多く残る大変良い経験になりました。商店街や実行委員の皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。そして作家の皆様、お疲れ様でした。

26.　　Wanabes　「Remorseless」

27.　　スナックその　「MUISEAC」

アート亀山に参加して亀山の方やアーティストと交流でき良い刺激になりました。この力を原動力にし、より頑張って行きたいと思います。

28.　　　ヤマグチリョウ（山口諒）
「地面に依る」
（レジデンス参加）

沢山の方々とお会いして、お別れをしました。
今日も皆さんはお元気でしょうか？

29.　　　三村麻奈
「みやげサロン「かめやま亭」」
（レジデンス参加）
今年も滞在してみて、すごく居心地がよかったです。
滞在しながら新しく、奥深い箇所ででてきた課題もいくつかあります。
それを自分なりのやり方で乗り越えていけたらなと思っています。

30.　　　長縄功太郎　「明日へ」

今回の作品は３．１１の東日本大震災を受けて、何かできることはと考え、「明日へ」という作品になりました。美術でできること、伝えるメッセージ。これからも大切にしていきたい。

31.　伊藤龍彦　「足元の星」

32.　　落合香苗
「SとMの二面性･･･シーツに抱かれた女性」

商店街方々の大きな協力のおかげ様で、展示・ファッションショーを無事に終えられました。本当にありがとうございました。作家として、人として、反省も含め、学ぶ事・感じる事が大きかったアート亀山でした。

33.　　Cake hara(木原圭)
「街い白(The street in the happy islands)」

34.　　川西みどり　「祈―フクシマ」

メインの作品は表のショーウインドウに展示。中に別作品展示と鑑賞者の福島へのエールをボードに添付してもらう鑑賞者参加の展示をしたつもりでしたが、店の中に入ってくれたかたは非常に少なく、中への誘導方法や、ボードを外側に出す等、考慮不足を痛感しました。また店の休日に来てくださった方もあり、店の休日の確認をしなかったことを反省しています。しかし、前のお店の方が来ていただいた人の名前をメモ。感謝です。

35.　　豊田千尋　「a girl」

普段は寂しげな東町商店街がアート亀山によってたくさんの人たちの活気に溢れとても嬉しい気持ちでした。地域に入り込む形での作品展示は、アートを通して人同士の交流もできて素敵だと思いました。

36.　　木游人　「無題」

回を重ねるごとに皆の作品が、だんだん素敵になってきて、「木游人」も、しっかりイイ作品を造らないとと思っています。
私たちは、流木など一般に捨てられた物を使い環境啓発しながら作品を造っています。作品を通して環境など、何かを感じていただければ、うれしく思います。

37.　　クニカワ電気　「ACARION」

昨年にも増し、商店街の賑わいを感じられました。クニカワ電器としても今回の制作・展示を通し、今後の方向性を確かめることが出来ました。亀山の街がアートを介して、益々元気になってゆくことを切に願います。

38.　　中村明穂　「Wind Fence」

39.　　Home Sweet Home production
「はなもり」

初めての場所で初めての人たちとアートでふれあうというのは、とても面白い経験でした。ワークショップに参加して下さった皆さんの手で私たちの想像を超える作品になったことを嬉しく思います。有難うございました。

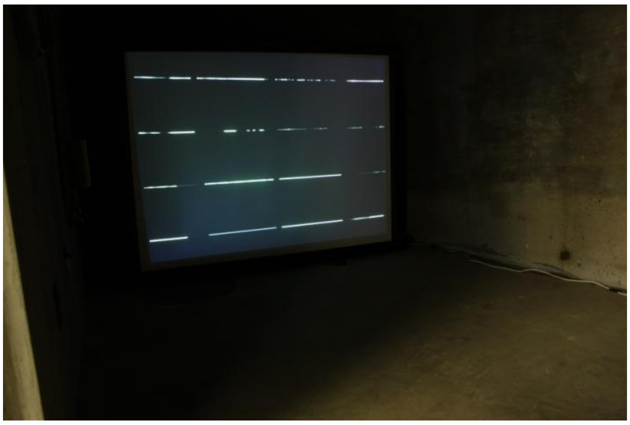
40.　　naorigi　「理想」

41.　　水野裕也　「KITOHA」

本当にたくさんの出会いがあり、大きな絆を感じました。英語でしりとり、とても楽しかったです。皆様から頂いた言葉は忘れません。ありがとうございました。

42.　　緒方直青　「リアルポートレート」

長い受胎期間の後、誕生したアート亀山は４歳になった。きかん気のやんちゃ坊主は歩み始めていろいろないたずらをする。まだお行儀も悪いしアイサツもうまくできない。けれどそれだからか本当に魅力的だ。アート亀山を美しいおとなに育てるのは私たちみんなだ。



43.　　　原耕平　「埋もれる」

アート亀山では、町民の方々の暖かさに触れることが出来ました。特に設置は町民の方々のサポートがなければ成り立ちませんでした。みんなで一つになり、良いものを作ろうという情熱が伝わってきました。

44.　　　森彩乃　「つづき」

自分と向き合う時間がある。自分が何をしてて、どこにいるのかわかるから、やめられないのかも。ここでやりたいことはまだある。２０１０より自分の仕事ができた２０１１でした。ここからの２０１２がたのしみ。

45.　　　森敏子　「速達＝ENTORYSHEET」

全国から寄せられた速達封筒。中身はポートフォリオ。ずっしりと重たかった。この封筒を使用して制作した。

「アート亀山２０１１」を終えた次の日から、もう来年の予算やコンペのことを考えている私の脳。来年も亀山の青い空のもと、命を宿した多くのＡＲＴに出会いたい。

46.　　　山口貴子　「Put」

教育にとっての目的が創造であるとするならば、芸術は教育としての優れたフォームを持つものである。このアート亀山は、人が形成される為に必要な出来事が自然にわき起こる場であった。その発生する出来事は、教育を行う為に不可欠な要素でもあり、人から場へと視点を移行させ、プロジェクトの発展を期待させる要素を持ち合わせている。最後に多くの人々が芸術活動（制作、鑑賞）を通して、自身の知性と感性の扱い方

を学ぶ喜びを知ることは、今後の社会が生きる力となるだろう。

47.　　市川薫　「内包される運命」

作品と共に自らの身をおくことは、私の中でかけがえのない心の旅となりました。ありがとうございました。

48.　　純あつし　「生命のベール」

71.　　Jun Atsushi＆Kaoru Ichikawa
「巡り逢う運命の連鎖」

赤い糸は存在し、巡り逢う運命の連鎖はアーティストの志の高さ次第で機能する。そのことはこの身をもって証明したと思います。ありがとうございました。

49.　　岡田雅文　「KAMEYAMCW」

ART 亀山。アートの前に町の人の暖かさを肌で感じた。こんな場所を多くの人々に知って頂きたいと強く思った。たくさんの作品はとても刺激になり、自分の作品との比較も楽しいながら。しかしまだまだ認知を！集客を！がんばろーって思いました！来年もよりよい ART 亀山に。

50.　　　佐藤学　「「地」をとらえる」
　　　　　（レジデンス参加）

様々なタイプの作家さん、作品そして亀山の土地と人々に出会えたことで、作品・制作の世界観が広がりました。
この経験を糧に更に大きくなってまた、亀山に来たいと思います。亀山の皆様、ありがとうございました。

51.　　　マシーミ
　　　　「KABUKIMONO_ANIMAL KABUKI MAKEUP」

アート亀山は、様々な場所からアーティストの方々が集まり、様々な価値観が集まる、とても刺激のある空間でした。参加させていただき、どうもありがとうございました。

52.　　　長瀬暁人　「Plant Factory」

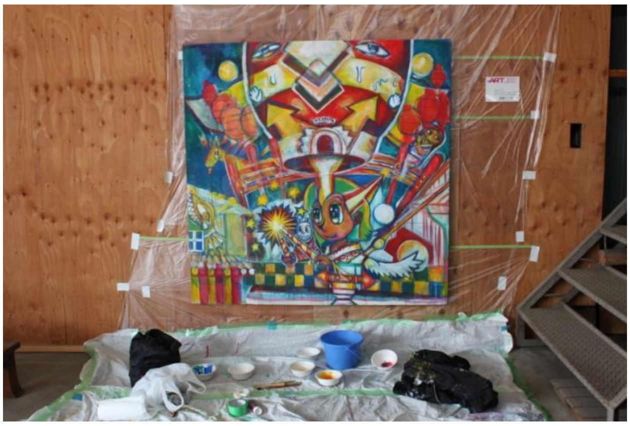
去年、今年と二年連続で参加させていただいたことで、まちなかに展示するおもしろさと難しさの大きくふたつのことを感じることが出来ました。

53.　　　名古屋芸術大学写真部
　　　　「Butterfly effect」

展示での細かい所の反省点や、集団で行動することの難しさを痛感しました。
同時に私たち学生は知らないことが多く、他の作家さんの作品を見て刺激を受け、
自分たちの作品につなげていきたいと思います。

54.　　JOE　「Sense of incongruity」

アーティスト・実行委員会として、初めて参加させてもらい、いろんな事が’’いい刺激’’になり、’’いい経験’’で、自分自身には、とても為になった。この経験を活かし、次回、更なるステップアップを目指したい！！



55.56.　　移動マッサージ
「せきのやま」他１点
(レジデンス参加)

アート亀山にはいろいろなドラマが有りました。亀山の方々からしてみれば僕らは日常の中に持ち込まれた異物で逆は非日常でそれによりお互い楽しげな宴が出来たかと思います。

57.58.59.　　wunit design studio
＋椙山女学園大学橋本雅好研究室
「super ball ART」

普段、建築を学んでいる私たちにとって、アーティストの方々との交流はなかなかないため、参加することによって普段とは異なった交流ができた。また様々な刺激も受け、この経験を建築分野や今後に活かしたいと思う。

60.65.　　大野綾香
「ぬれるのはしょっぱいほうがいいじゃない☆」

66.　　本田耕二郎＆高橋純平

「亀山植物園−人と人の繋がりが見えるフウケイとカタチ−」

地域の皆様と寄せ植えをし、植木鉢を商店街に設置するワークショップを実施しました。

１００個の小さな植木鉢が東町商店街の風景を育てる一助となれば幸いです。

多くのご参加誠にありがとうございました。

67.　　コバヤシ＋トヨダ

「angle」

普段はゆったりとした時間が流れる亀山で、活気ある祭典に参加出来たこと、

多くの作家の方々の作品を拝見させてもらえたことは、非常に刺激のある出来事でした。

また機会があれば参加させて頂きたいと思います。

68.　　上岡雄貴　「かわら」

（レジデンス参加）

「亀山」がより豊かな「場」となり、「亀山」を通り過ぎていくモノ達も各々の「場」へ無事たどり着けることを願うばかりです。ご来場いただいた皆様及び商店街の皆様、そしてアート亀山に関わったすべての皆様本当にありがとうございました。

69.　　自転車タクシーNotteko
「VELOTAXI Notteko」

70.　　名城大学理工学研究科建築学専攻
有志＋谷田真研究室
「モバイル・オアシス」

アート亀山が、我々の思考を具現化できる場となっていることに感謝しています。これからも多くの企画が継続されることを願うとともに、我々もハレの商店街だけでなく、ケの商店街で貢献できることを考えたい。

ファッションショー　2011.10.22　法因寺

映像作品上映　2011.10.22　法因寺

あふれる ART

作家によるアンケート回答結果概要　　　　　　（注）レジ：レジデンス参加者

展示期間について

作家：土日を２回含めた今回の１週間程度が良かったという意見と、もう少し長く２週間程度あった方が良かったという意見が半々くらい。

レジ：１週間の滞在では２日間位が適当であるが、もう少し製作期間を長くし、展示期間も多めにとりたいとの意見が多い。

展示場所について

作家：良かったと満足されている作家がいる反面、自分の場合は納得するが気の毒な作家も居たとの意見も多い。　展示環境についての情報不足、割り当て方法に対する不満、作品の保護が充分になされず破壊されたといった、今後の検討課題が多い。

レジ：「良かった」と「少し不満」が半々。　「みらい」も使うなど、更なる工夫が求められている。

ワークショップや講評会、イベントについて

作家：特に現代アートは分かりにくいと思えるので、作家による展示作品の説明を含むトークショウ等を設定し、一般の人達に作品を理解してもらえる機会を作りたい。

鑑賞者の参加型イベントで更に盛り上げたい。

作家の作品を即売できるブースを設置する等、積極的な提案が多く寄せられている。

レジ：ワークショップ、講評会、作家によるトークショウ等、アーティストに加えて、地元の高校生、中学生や商店街の人達との交流の機会を設けた方が良い。

選出アーティストについて

作家：作品のレベルをあげ、バラエティーに富んだ作品を増やすには、年齢制限を外して応募数を増やしたり世代の幅を広げることも必要。　野外を利用した作家、大きい作品を展示する作家、パフォーマンスやショーをされる作家がいればさらにアート亀山が面白くなるであろう。

大学ゼミ等のプロジェクトのリサーチや発表の場になっているのが興味深かった。これを有効に活用すれば、互いに発展する事ができると考える。

多様な視点で評価できるアドバイザーの必要性を感じる。　審査の段階で大学の先生や美術館学芸員のかたに加わっていただくというのも、ひとつのアイデアと思う。

レジ：バランス良く、いろんな分野の作家が参加下さって良かった。

アート亀山実行委員会について

作家：実行委員の方々の一生懸命の努力に感謝している。　が、役割の分担が明確でないため一部のメンバーに過度の負担がかかったり、情報の共有が徹底されていないため、混乱することが多かった。

特に平日の受付、案内、見回りのスタッフが少なすぎた。もっと若手の実行委員を増やせれ

ばよい。

アート亀山について

作家：今後の方向性について意見が分かれている。一つは、小・中・高生や地域の文化教室、街の技術者や職人、それに市外からの参加者を巻き込んだ「街ぐるみの文化祭」のような、地域・期間・出品参加者の更なる拡大を目指してもよいのではないかという意見。一方、学園祭のノリから脱却し少人数の精鋭で展覧会の質を上げていくべきとの意見もでている。

（同じ市内である）関のタクシー会社が知らなかったというように「アート亀山」の認知度が低い。１週間のアート展だけではなく、Ｗｅｂサイトを活用するなど、亀山のアート活動を常に情報発信し続けたい。

作品破損が目立ち残念に思う。子供に対して「作品にどのように接するのか」の教育など、効果的な対策を望みたい。

レジ：「アート亀山」を知らない店舗や地元の人達が居て、まだまだアピールが不足している。

亀山について

作家：地形が面白く、緑が多く、空気も良くて、のんびりできて気持ちが良かった。また、イベントをするのにまとまりやすい規模の街。

アーケード街だけでなく宿場や駅前の地域など､町の雰囲気が伝わる場所でも展示できるようになったらいいなと思う。

（自然が豊富で、よい所との評価が多かったが、創作意欲を触発されるというような発言は無かった。が、作家が集まって刺激を受け、創作する場として、そして発表する（できる）場としての価値を認めてもらっている。）

レジ：自然環境も良く、雰囲気の良い街との好印象をもたれたよう。　但し、創作意欲を喚起するかのような表現は無い。

<u>レジデンスのみに対するアンケート回答結果概要</u>

滞在期間について

１週間は、リサーチにはちょうど良い期間であったが、作品制作、展示等を含めると、２週間程度あった方が良かったとの意見が多い。

滞在場所について

合宿風で楽しかったとの意見がある反面、門限、消灯といった生活面での制限が煩わしかった。アーティスト間だけでなく地元のメンバーとの交流機会(ホームステイ等)があった方が良い。 また、冷蔵庫、電子レンジ等のインフラにも配慮を望みたい。

滞在人数について

ちょうど良かったとの意見が大半を占める。

実行委員会出席者

伊藤峰子	森彩乃	木原圭
森敏子	倉岡雅	川西みどり
富松みね子	田村公男	木游人
豊田美保	落合香苗	水野裕也
伊藤幸一	岡田雅文	蔵城史明
岩間政人	山本篤	上村愛
小菅まみ	倉岡としえ	佐野奈月
福沢みゆき	緒方直青	豊田千尋
鳥海翼	井谷うらん	最所一子
杉野綾美	伊藤龍彦	大澤哲也
坂口一郎	堂本清文	瀧本麻須美
平松典子	上岡雄貴	

※順不同

この他にも出席された方がみえましたら､失礼をお詫び申し上げます。

編集後記

金曜日の夜は若い女性にとっては、忙しいはず。
なのに、鬼編集長は二人に向かって「集合！」の命を出す。
二人の若い編集部員は就活の時間をぬって、パソコンを抱え、毎週金曜日の夜、我が家に駆けつけてくれる。
典子さんは文章を書くのが得意。彩乃さんは自分が撮った写真を使って楽しそうにレイアウトをやっている。私はと言えば、お茶とお菓子と雑談を担当。
時に二人に上から目線で嫌味なダメ出しをする。
そんなこんなで出来上がった記録誌です。
実行委員の富松さんには、並々ならぬお世話をおかけしました。
ありがとうございました。
みんなで盛り上げた「アート亀山２０１１」の熱い思いが伝われば嬉しいです。＜森　敏子＞

「アート亀山２０１１」記録誌編集担当
平松典子
森　彩乃
森　敏子